



超成熟社会、発展のための科学と社会システム

編集にあたって

編集チームリーダー 山中直明

あけましておめでとうございます。年ごとに1年がたつのが早くなっているような気がしますが、これは年をとると変化を求めないからだそうです。新年1月号は、電子情報通信学会は新年にふさわしい社会を鳥瞰するような特別小特集を組んできました。今年は、新年のはじめに「超成熟社会」を考えることにします。年金問題は、一時の混乱はなくなったのかもしれませんが、テレビや新聞は、多くの時間を高齢化問題、少子化問題、年金問題、財政問題を取り上げています。マスコミで煽るようなトーンは、危機感を持つことはできても解決の糸口もよく分からなく不安すら覚える人が多いかと思います。

そこで我々は、あえて高齢化社会とは言わず、いずれ世界中が迎えるこの時代を「超成熟社会」と呼び、それに対する対応も「発展のため」の技術と考えてこの小特集を始めます。

日本は世界に最も先駆けて、少子高齢化社会になります。これは、社会的には課題ですが、まずこの特別小特集を機会にして「課題」を具体的に強く認識し、それらの課題に対して解決する技術や要素、ブレークスルーは何であるかを考えます。そのアプローチの方法が重要かと思っています。また、それらが社会にもたらすベネフィットも見つめる必要があります。例えば、エネルギー問題の解決は、エネルギーのベストミックスとICTとします。これらが進化すると、CO₂の少ないクリーンな社会を発展的に維持できることを意味します。また、年金と高齢化問題を課題とします。65歳以上の人材の活用を進めるために、サポートする技術としてロボットやICTの利用で、社会参加を勧める社会を目指します。少子化による労働力の減少も解決します。その結果として、シニア世代のQoLの向上とやりがい、つまりは、現在のような65歳になると定年になり、年金をもらう

システムからの退却の手段につながります。これらの課題に答えようとする、おのずとニーズの高いブレークスルー技術を見いだすことができます。また、多くの技術は、現在あるものとは限らず、つまりは需要を予測して作り上げなければいけません。更に社会システムや制度、政策、法律等、幅の広い問題に対応しなければならず、対応できる人材育成は急務です。

課題を解決する手段や技術は、将来日本や、米国、ヨーロッパといった国々だけではなく、アジアの多くの国々がかかえる課題と先行して解決できますので「課題先進国」としてグローバルな展開も考えられます。つまり日本の産業の発展にも寄与できると思われます。

新年に当たり、日本の未来を鳥瞰して社会の課題を見つめて、それらの課題を解決すべき技術やシステムを深く思考して解決されるサステナブルで真に豊かに社会を考えるチャンスにして頂ければと思います。

私の所属する慶應義塾大学の創始者である福沢諭吉先生は「学者は国の奴雁（どがん）なり」と言われました。奴雁とは、雁の群れが餌をついばんでいるとき、一羽だけ首を高く掲げて周囲を見渡し、難に備える番をするものをいうそうです。電子情報通信学会の会員の方は、多くの人が、今の仕事と生活に忙しく生きている中で、今一度、高く首を掲げ、本当に大切な技術を見定めて頂く充実した奴雁としての1年をお過ごし頂くことを強く望みます。「電子情報通信学会は、国の奴雁」です。



(出典：Wikimedia Commons. By bu Alan D. Wilson)

特別小特集	山中 直明	石井 孝明	源田 浩一
編集チーム	廣瀬 明	麻生 英樹	